

大田原 屋台まつり



◆宵まつり 各屋台自町内引き回し ◆本まつり セレモニー / 午前11時45分

4月18日(土) 4月19日(日)

ぶっつけ 午後7時 (金燈籠交差点) ぶっつけ 午後6時 (金燈籠交差点)

大田原市屋台まつり実行委員会
事務局 ☎0287-22-2273



荒 荒町



光り輝く玉、鮮やかな彫刻
荒町の初代屋台は江戸時代後期の作で、製作年代は不明です。
黒漆塗りの柱や金箔の金具の中に、色鮮やかに染め抜かれた上支の彫刻が取り付けられ、威光を放ちます。屋根の中央に立つ龍と玉、4枚の轆子には、那須与と扇的の刺繍が施されています。
お囃子は神田五段囃子荒和志流、荒和志会が奏えます。

上 上町



百余年以上の歴史を刻む
上町の屋台の歴史は古く、1849(嘉永2)年の作です。屋台の特徴として、前鬼板に彫られた龍は頭部の取り外しが可能で、鹿沼にも同じ造りのものが2台あります。
この龍と、高欄(欄干)の左右の手すりのような部分の下に彫られた獅子をよやく見ると、口などの一部だけが赤く塗られ、ガラスでできた龍がはめ込まれています。
上町の屋台はお囃子を松葉流、上町お囃子保存会が担っています。

大久保町



由緒ある彫刻を有する誇り
大久保町の初代の屋台は、1860(万延元年)に建造されました。屋根の上には、150年以上の歴史を持つ、軍配をかざした仙人の彫刻があります。
「桐に鳳凰」という栃木県内でも貴重な桐の彫り物の上座すの仙人は桐彫仙と呼ばれ、仙人と、とても格の高い仙人です。
お囃子は、神田五段囃子小流流城山鳴物会が務めます。

榮 榮町



均衡のとれた繊細な彫刻
榮町の初代屋台は、1947(昭和22)年に町内有志と大工の名によって造り上げられました。
現在の屋台2011平成23年に建造され、本体彫刻は青森県つ市、御所車は鹿沼市で建造された台作です。正面の彫り口には、風神・雷神が彫られています。ほかにも、飛龍・鶴・魚・獅子などの彫刻が施されています。
お囃子は、神田五段囃子による神田五段囃子内水神流が奏えます。

大 大手



武家町が望んだ新造屋台
江戸時代当時、武士の住む町であり、町人の祭りには参加していなかった大手が、現在の屋台を完成させたのは、2007(平成19)年のこととなります。
中央に、らみを前かせる人物は、中国の小説水滸伝に登場する道士・公孫勝です。
彼は別名・人童童とも呼ばれ、下に龍を従えます。
お囃子は、田原町中野内若連囃子方松葉流五段囃子を師とする、龍西松葉流大手囃子保存会囃子会が担います。

志 志町



勇ましくも雅な木彫りの冴え
志町の初代屋台は、記録によると1818(文政元年)に建造されたと言われます。
前鬼板には、一本竹の見える龍が彫られ、その下の前鬼には魚の木彫りを配い、波紋の中を進む姿が描かれています。花鳥と牡丹があしらわれた飾り戸を上げて進む様子は圧巻です。「町屋では昔ながらの「志も町」という名前が使われます。江戸神田囃子の流れをくむ神田五段囃子松葉流城之内囃子会です。

寺 寺町



可憐な手古舞、美しい朱塗り
寺町の初代屋台の製作年代は不詳ですが、茨城県常陸大宮市獅子地区に保存される屋台が初代屋台といわれます。
色鮮やかな朱塗りが施された屋台は、県内でこの屋台が唯一。現在の屋台彫刻には、1958(昭和33)年の台風で倒伏した光景を門前の大衆が使用されています。
また、寺町の屋台の方向転換は手回し式リンを採用しています。
お囃子は100年以上続く平林お囃子連保存会です。

仲 仲町



伝統屋台が奏でる新しい音
江戸時代末期に製作された仲町の初代屋台は、戊辰戦争の際に焼失し、1919(大正8)年、現在の屋台が製作されました。
前鬼板に取組、前懸魚には波千鳥の彫刻が施されています。ほかにも、牡丹・菊水彫刻、他の町内よりも長く造られた彫り戸(屋台後方の扉)に彫られた龍の流りなどが特徴です。
お囃子は、1968(昭和43)年に仲町独自に発足した郭内流仲町管絃会が奏えます。

元 元町



昇り龍、威風堂々
元町の製作時期は江戸時代とされており、1982(昭和57)年に益子町の関氏から譲り受けたものです。
前鬼板には牡丹と獅子の彫り、前懸魚には龍がいます。そして龍の奥、前方の欄干には獅子があり、立身出世を意味する中国の故事「龍の流り」を表現していると考えられます。
お囃子は、原山松葉流中野内囃子保存会、大和流獅子囃子保存会の2流派が演奏をします。